秋田・藩校明徳館跡（はんこうめいとくかん）

1 所在地　秋田市中通一丁目

2 調査期間　二〇〇三年（平15）七月～八月

3 発掘機関　秋田県埋蔵文化財センター

4 調査担当者　五十嵐一治

5 遺跡の種類　城下町跡

6 遺跡の年代　一七世紀前半～一九世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

藩校明徳館跡は、日本海汀線から東に約五・三kmの秋田低地上に立地し、標高は約六m。JR秋田駅の西約六五〇mにあり、秋田藩主佐竹氏の居城・久保田城下の内町にあたる。藩校明徳館は、寛政二年（一七九〇）に「学館」の名称で開学し、寛政五年に「明道館」、寛政七年に「明徳館」と改称され、明治維新まで存続した。本遺跡は二〇〇一年、秋田市教育委員会による発掘調査が行なわれ、四点の木簡などが出土した。（本誌第二五号）

（秋　田）

今回の発掘調査は、秋田中央道路建設事業に伴うもので、調査面積は二〇〇㎡。調査区は、秋田市教委による発掘成果や『久保田城下絵図』などから、藩校敷地の北西側外で、上級家臣である小場家の屋敷地にあたる。調査の結果、土坑五基・溝九条・柱穴（列）などを検出し、多くの陶磁器類や木製品などが出土した。

木簡は、不整楕円状の土坑SK三三から一点出土した。共伴遺物には、一七世紀前半の灰釉丸皿や溝縁皿などの陶器類が多く認められた。

8 木簡の釈文・内容

(1)「□□□」　(86)×16×2　019

下端のみ欠損。墨痕は鮮明であるが、判読できない。

9 関係文献

秋田県教育委員会『久保田城跡・藩校明徳館跡』（二〇〇六年）

（高橋　学〈秋田県払田柵跡調査事務所〉）